

*集会報道を書いてみる

基礎事実 集会報道は、その集会に関する
を確実に 基礎的事実と、基本的な意義、
評価がわかるようにすることがまず必要で
す。

だが、何を、いつ、どこで開いたか、ど
のような人が、何人あつまったのか、だが
何を発言し、何を決めたか、この集会に関し
関係者はどう言っているか、などをきちんと
書くことです。その際、主催者が実行委員会
なら、「○○○、▽▽▽などでつくる実行委
員会」とするとか、発言者の氏名、役職をま
ちがえないよう確認して書くとか、人数が主
催者発表と、自分の判断とちがうときは、必
要ならそのことを書くとかが必要です。

そのうえで、集会の特徴、評価がわかるよ

うにしなければなりません。

どういう情勢の中で、どういう目的で、ど
ういう構えで開いたものなのか、そして集会
の成果はどうだったのか、といった点がきち
んとおさえられるよう、事前、事後に主催者
の話を聞く必要があります。

また、参加者はふえたのか、いつもとちが
う層が参加しているのか、ブラカード、ゼッ
ケン、ノボリなどはどうか、ということも、
よく見ておかねばなりません。

さらに、集会の主人公である参加者が、ど
んなとりくみをしながら、どんな気もちで参
加してきたのか、その表情はどうか、集会の
感想と決意はどうか、などを取材し、仲間が
実感した集会の成果と今後の課題などを浮き

ばりにします。

輝くものを たとえば、ある集会に参加す
みつける るまでには、職場、地域、家

庭などで「行く、行かない」から始まって、
着ていくものをどうする、ブラカードはどう
する、などの討論があるでしょう。人によっ
ては、集会に参加したためできなかった仕事
をどう埋めあわせるか（住民集会がひらか
れるときなど、朝早く起きて山仕事を片づけ
るとか、職場でも残業をかわってもらった
か）、家事をどうするか、子どもや、ねたき
り老人のめんどうをだれにみてもらうのか、
などの問題を解決しなければなりません。

そこでの苦労と、解決に至る連帯の姿が取
材してつかめれば、集会参加者や、読者を大
きく励ます記事となるでしょう。

「いつもと同じ顔ぶれの集会で、そんな感
動的な話はない」と思えるようなときは、一

面では、こちら側もマンネリになっているも
のです。ここを突き破り、どんな小さな芽で
も輝くものを発見していくのが取材です。

「仕事をよこせ」という失業者の集会・デ
モを取材した記者が、参加した失業者の実態
を聞いてまわっているうちに、がまんできな
くなり、宣伝カーにとびのって「このデモに
はこういう人が……、しかし政府は……」と
演説をぶってしまった、ということがありま
したが、通信員は傍観者ではなく、ともに運
動する一人という立場で、取材しまくり、書
きまくることが求められています。

なお、一人で取材しなければならないとき
は、テープレコーダーを用意し、集会の流れ
を記録しながら、参加者へのインタビューを
旺盛にやる、というような努力が必要だし、
通信員、協力者をふやして、集団で取材でき
るようにすれば最高です。

松沢 常夫

* 人物紹介記事を書いてみる

一步掘り下げた 日常のつきあいの中で、人物像を描く あるいは何かの取材活動の中などで、「おもしろい人だなー」、そんなに変な生活なのか」などと、ひきつけられることがあります。そんな特定の人物を一步掘り下げた記事を書いてみるのは、とても楽しいものです。とくに、その時々を中心的な闘争課題とその人の生活なり考え方なりが深いところで結びついているような人の紹介記事は大きな意味をもってきます。また、いろいろな趣味をもっている人、珍しい人生体験の持ち主など、およそ人間的関心をそそられる人はいっぱいいます。ですから、ふだんからの深いつきあひとともに、前の章でも述べたように、集会などで、「これは」と思う人

にぶつかったら、その人のもっているものとことん引き出す執念をもった取材が大切です。

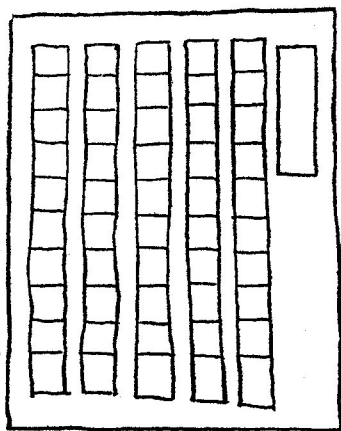
記事を書くための ここでは、ほとんど初九つのポイント 対面に近いような人の場合の取材の心得を書いてみます。よく知っている相手の場合も、基本になるからです。

①取材の目的と「何が聞きたいのか」を自分のはっきりもつことはもちろんですが、相手にもよく話して、納得してもらおうことです。このことが相手から信頼され、なんでも話してもらえようになる第一歩です。

②事前の準備をよくととのえておくことです。その人をよく知っている人から、聞きたいポイントに関係すること、人柄、エピソード

下などを聞いておくこと。趣味、出身地、家族などもしらべておくとういでしょう。

③聞きたいポイントにそいながらも、話が別の方向に進むことを恐れてはなりません。そこから別のテーマが発見できることもあります。とくに、相手の人生観、生き方を変えた事件、などの話が自然と引き出せば最高の取材といえるでしょう。



ハガキをいつも持ち歩くのも一方法です

④テープレコーダーは相手の確認をとってからまわさなければなりません。

⑤数字の年代など、話す相手自身がまちがってしゃべっているときがありますから、おかしいと思ったことは必ず確かめてみる必要があります。

⑥取材する場所も、目的に応じて、相手の家とか、職場、喫茶店、趣味の場など、ふさわしいところを選ぶことです。

⑦記事にするときは、書きたいポイントをしばって、だらだらと書かないことです。

⑧文章は、相手のナマの言葉の味が出るよう、また、話している表情がうかんでくるような工夫が必要です。

⑨生年月日、家族構成などは本文に入れた方が生きる場合もありますが、末尾にまとめて「略歴」のようなかっこうでのせる方がよいこともあります。

松沢 常夫